

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1. 児童生徒一人ひとりを大切に教育をすすめる、保護者や地域から信頼され評価される学校として、生活の場を広げ豊かに教育活動を展開し、自立と社会参加を可能にする力を養い、家庭、地域、関係諸機関との連携を強め、個に応じた進路実現を図る学校をめざす。
2. 障がいの重度化、多様化に対応した障がい理解と専門性向上に基づく集団指導体制を確立するとともに、地域の特別支援教育の拠点としての役割をさらに推進する。

2 中期的目標

- 1 個に応じた指導の充実と専門性の向上
 - (1) 多様な障がい特性に応じた指導の充実と、知的障がい支援学校高等部としての専門性の向上
 - ア R-PDCA サイクルによる「個別の指導計画」の有効活用を図り、3年間を通じた教育計画の実施や、教育課程の見直しに努める。また、富田林支援学校版キャリアプランニングマトリックス表に基づき、自立活動の充実を図る。
 - イ「楽しい授業」「わかる授業」「ためになる授業」をめざして、ICTの活用や公開授業・研究授業などを通して、授業力の向上をめざす。
※学校教育自己診断〔高等部〕の授業や学校行事に対する満足度（肯定率）90%以上とする。
 - (2) 生徒指導の充実
 - ア 多様化する生徒指導に対応できる学年を越えた体制を構築し、人権意識を高め、障がいのある思春期の生徒の理解と指導の充実を図る。
 - イ いじめのない集団づくりに努め、生徒が安全・安心して過ごせる学校をめざす
※上記アイの取り組みについて、学部を超えた連携体制を構築する。
- 2 高等部卒業後の自立と社会参加に向けた進路指導の充実
 - ア「個別の教育支援計画・移行支援計画」を有効活用し、すべての生徒のキャリア教育・職業教育の充実をめざす。
 - イ 関係機関と連携し、職場開拓、就労体験実習先企業の開拓を組織的に行い、校内外職業体験授業や就労体験実習等を推進する。
 - ウ 平成 25 年度より本格実施した職業コースを軸として、就労を希望する生徒の支援システムの充実をめざす。
※進路研修の充実を図り、教員のキャリアカウンセリング能力を高め、生徒のキャリア支援の充実をめざす。
- 3 地域と連携した安全・安心で、魅力のある学校づくり
 - (1) 地域支援・地域連携
 - ア 南河内圏域の知的障がい支援学校高等部として、特別支援教育の専門性を発揮し、知的障がい生徒自立支援コースのある高等学校と連携して、地域の障がいのある生徒の支援を推進する。
※特別支援学校教員免許状取得率の向上や、校内研修内容の充実を図り、専門性の向上に努める。
 - イ 地域の高等学校との授業交流を通して、交流及び共同学習の推進に努める。
 - ウ 障がいのある生徒の理解推進に向けて、職業体験授業の提供企業、学校支援ボランティア、地域の小中学校や自治会、その他関係機関の協力を得て「開かれた学校づくり」に努める。
※広域避難場所に指定されているので、地域と協力して防災計画に取り組む。※校内体制を整備し、情報発信や相談支援体制の構築に努める。
 - (2) 学校での教育活動の活性化
 - ア 生徒が主体的に参加し、自己表現力や自己肯定感を高める教育活動の展開
 - イ 部活動や生徒会活動の活性化

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全般】 《保護者》 回収率 62.8%(H27 62.6%) 一般的には、肯定的回答率が昨年よりやや下がったものの、すべての項目で肯定的な回答率が 80%を超えた。高等部に限って言えば、17 項目中 10 項目が 90%を上回った。否定的な回答率が 10%を超える項目はなく、学校の教育活動に対しては、概ねご理解いただけていると考えている。</p> <p>【個に応じた指導の充実】 日々の授業や学校行事（体育大会や学習発表会等）で、すべての生徒が参加し、自分の思いや自己を表現でき、成功体験がもてるよう工夫した支援・指導に努めたこともあり、「学校に行くことを楽しみにしている」(93.5%)「楽しくいきいきと授業に取り組んでいる」(92.2%)は、昨年より肯定率が高く、日々の学校生活が充実し、満足度も高いことがうかがえる。</p> <p>【生徒指導・進路指導の充実】 「進路情報提供」(88.4%)、「いじめのない集団づくり」(85.8%)は昨年より肯定率がやや低くなった。進路情報提供は、受ける側のニーズをリサーチしながら、より適切な情報の提供に努めたい。また、生徒指導については、引き続き、日常的な生徒観察や連絡帳及び定期的なアンケート等により、生徒の状況や人間関係を把握し、傾聴をベースにきめの細かい指導・支援を続けていきたい。</p> <p>《教員》 回収率 100% (H26 97.8%) 回収率 100%で、すべての項目の肯定的回答率が 80%を超えた。ただ、「生徒・保護者が相談できる体制の整備」については、昨年より否定的回答が減少したものの、10.8%と 10%を超えており、生徒と向き合う時間や相談体制のさらなる充実が必要である。 また、教員の健全な同僚性・信頼性を育むためにも、教員同士がしっかりコミュニケーションとれる機会を確保することも大切である。</p>	<p>○第 1 回 (6/10 〈金〉) 《ヒヤリ・ハットの報告》について ・気づきを共有し、対応したものをみんなで共有していくのはよいだろう。 ・取るに足らないと思われる気づきを見落とすことなく、きめ細やかに対応することで、再発防止や大きなアクシデントにつながらないようにしていくことが大切。いつ、どこで、だれが、どうした等書き方の向上も必要。</p> <p>《ライフキャリアコース》について ・ライフキャリアコースには保護者の関心も高い。「ライフキャリアコースに入れなくても、就労は可能」のように情報提供することが保護者の不安感を払しょくし、安心感につながる。 ・就労にも合理的配慮が入り、今後は様々な働き方があり、企業から求められるものも多様化していること等、雇用の状況を保護者に知ってほしい。</p> <p>○第 2 回 (11/21 〈金〉) ・小・中・高等部と順に授業を見学したことで、学部ごとの違いが分かってよかった。今回のように、わが子以外の学校のカリキュラムを見てもらえるような、客観的な視点で学校を見る授業参観を企画するのもよいだろう。</p> <p>○第 3 回 (2/24 〈金〉) 学校教育自己診断について ・学校教育自己診断の教職員回答率（今年度 100%）や授業アンケートの回収率が上昇（70%、H27 年より 7 ポイント UP）している。協議会での意見を受けて、学校側が努力している点は評価できる。</p> <p>進路情報の提供について ・進路情報の提供については、学部・学年によって関心度に差がある。進路と言われても、その関心度・必要度には個人差があり、一律にすべての人にニーズにあう情報提供はなかなか難しい。しかし、「卒業後どのように生きるか」を考えるとこの観点からすれば、12 年間一貫したキャリア教育は重要で、それぞれの学部・学年に応じた取組みや情報提供を考えてみてはどうだろうか。例えば、PTA の協力を得ながら、卒業生の保護者など、経験者・当事者の声を聴く機会を設ける等々</p>

府立富田林支援学校(高等部)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 個に応じた指導の充実と専門性の向上	<p>(1) キャリア教育の視点に立った個に応じた指導の充実</p> <p>ア R-PDCAサイクルによる指導の充実と授業力の向上</p> <p>イ 個に応じた指導や支援の充実・専門性の向上</p> <p>(2) 生徒指導の充実</p> <p>ア 生徒の人権尊重と人権教育の推進</p> <p>イ 安全安心な学校づくり</p>	<p>(1)</p> <p>ア・作成したキャリアプランニング・マトリックスと「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を連動させた授業づくりを進め、公開授業・研究授業等で実践発表・検討を行い、その成果を蓄積・共有化する。</p> <p>イ・多様な障がいの理解を深め、日々の指導に活かすために、外部講師による研修を実施し、専門性の向上を継続的に図るとともに、個に応じた指導・支援の充実をはかる。</p> <p>外部講師・校内講師による研修を、夏季休業中を中心に10数回実施する。このうち、「生徒の見方がわかる連続講座」(内容:ユニバーサルデザイン・基礎的環境整備・進路関係)については、5月・夏季休業中・9月に計4回実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・「子どもの権利条約」や「障がい理解」「児童虐待」「体罰防止」など教職員として人権感覚を高める研修の充実を図る。</p> <p>イ・関係機関や外部専門家等の協力を得て「心の健康相談」「臨床心理士による相談事業」「PT・ST・OTによる相談事業」等を活用し、生徒指導の充実を図る。</p> <p>・日常的な生徒観察や連絡帳及び定期的なアンケート等により、生徒の状況や人間関係を把握し、いじめのない学校づくりに取り組む。</p> <p>・「ヒアリ・ハット報告」をもとに、危機管理体制を整備・充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(教職員)「教育活動の評価」の肯定率(H27 88.9%)を90%以上とする。</p> <p>イ・学校教育自己診断「教職員の障がい理解(保護者)」の肯定率(H27 94.5%、うち、〈よくあてはまる〉は37.4%)の〈よくあてはまる〉を45%以上とする。</p> <p>学校教育自己診断「個別の支援計画・指導計画に基づく指導」の肯定率を昨年度以上とする。(H27 教職員 91.5% 保護者 93.5%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・事後アンケート(満足度や有用感など)学校教育自己診断「教職員の人権尊重の姿勢」の項目の肯定率を昨年度以上とする。(H27 91.3%)</p> <p>イ・相談回数(H27 PT 7回、ST11回、臨床心理士 10回)</p> <p>・学校教育自己診断「いじめのない集団づくりへの取り組み」の肯定率を昨年度以上とする。(H27 89.1%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・昨年とほぼ同様の肯定率(88.5%)。今後も保護者とも丁寧に懇談等を実施するなど、生徒の実態把握に努め、卒業後の進路を見据えて、個の成長を育む授業づくりを進めたい。(○)</p> <p>イ・研修は計画通り実施できた。「障がい者理解」の肯定率86.3%中、〈よくあてはまる〉39.7%であった。また、「計画に基づく指導」は教職員 89.9%、保護者 90%であった。今年度、高等部では特別支援免許取得率が昨年より10ポイント上昇した。次年度も校内研修を計画的に実施するとともに、特別支援免許認定講習受講を呼び掛けるなどにより、教職員の専門性のさらなる向上を図っていききたい。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・参加体験型研修(2回)や外部講師を招いた人権研修を実施した。自己診断の肯定率は87.1%であった。次年度も引き続き、体罰・虐待・ハラスメント等人権に係る研修を行い、教職員の人権意識の高揚を図りたい。(○)</p> <p>イ・生徒並びに保護者が外部人材に相談する機会(PT 7回〈22件〉、ST10回〈13件〉、臨床心理士 10回〈30件〉)を実施するとともに、連絡帳やアンケート、日々の生徒観察教職員の情報交換により、生徒の状況や人間関係の把握に努め、必要に応じて、迅速かつ組織的に生徒の指導・支援に努めた。自己診断の肯定率は87.3%であったが、次年度以降も、日々の生徒指導の充実を図っていききたい。(○)</p> <p>・ヒアリ・ハットの情報を職員間で共有するとともに、対応策を迅速に実施した。(○)</p>
2 キャリア教育の充実	<p>高等部卒業後の自立と社会参加に向けた進路指導の充実</p> <p>ア 進路情報発信と研修の充実</p> <p>イ 就労先・職場体験実習先の開拓とアフターフォロー</p> <p>ウ 就労支援の充実</p>	<p>(2)</p> <p>ア・冊子『進路のしおり』『障がい福祉サービスの現状』、「進路ニュース」の保護者配付などにより、進路情報を発信するとともに、福祉機関と連携した進路懇談会、外部講師による研修会や進路見学会を開催する。</p> <p>・研修等を通して、教員向けに福祉制度や障がい福祉施策全般の理解推進を充実させる</p> <p>イ・夏季休業期間を利用し、進路指導部を中心に約100社を目途に連絡・訪問するなどして、新たな就労先や職場体験実習先の開拓に努める。なお、事前に企業開拓の教員研修を行う。</p> <p>・職場見学・体験にあたっては、保護者にも協力を求めるなど、進路に対する生徒・保護者の理解が深まるよう工夫する。</p> <p>・卒業生が学校に集まる機会(同窓会・成人を祝う会)を設けるとともに、企業や関連機関と連携しながらアフターフォローを充実させる。</p> <p>・施設生徒の卒業後の進路実現に向けて、関係施設との連携(相互研修や資料の共有化など)を深め、個々の生徒の進路指導の充実を努める。</p> <p>・就労及び卒業後のアフターフォローにおける連携を高めるため、ハローワーク及び就業・生活支援センター等の関係者との懇談会を実施するとともに、情報の交換・共有を一層深化させるため、日常からあらゆる機会をとらえてコミュニケーションを図る。</p> <p>ウ・定期的に職業コース(ライフキャリアコース)について考える委員会を開催し、授業内容や生徒募集等の現状の分析と課題解決のための方策を検討する。</p> <p>・外部講師を招いて、職業コースのみならず、就労をめざす生徒の職業意欲・スキルを高める講習・講演会を開催する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断「適切な進路情報の提供」の教職員(H27 87.5%)、保護者(H27 94.5%、うち〈よくあてはまる〉が53.8%)の肯定率の〈よくあてはまる〉を60%以上とする。</p> <p>イ・アポイントメントや訪問した事業所の数(100社以上をめざす)</p> <p>・実施後の事業所並びに保護者の評価</p> <p>・ケース会議の開催回数 生徒一人につき複数回以上の実施。</p> <p>・懇談会の実施回数 全体では5月に地域の福祉関係者を招いた懇談会を実施。</p> <p>ウ・外部講師に講習会・講演会の開催 マナー講座等各学期に1回以上実施。</p>	<p>(2)</p> <p>ア福祉懇談会(5月)、外部講師による研修会(11月・2月)、進路見学会6回実施した。自己診断結果は、教職員 87.1% 保護者 88.5%うち〈よくあてはまる〉45.5%と、保護者に関しては、やや肯定率が下がった。次年度は保護者が求めている情報が何かをリサーチしながら、より適切な情報が提供できるようにしていきたい。(△)</p> <p>・外部講師を招いた研修だけでなく、支援センター連絡会議や市町村自立支援協議会や福祉団体等が主催する研修会にも積極的に参加した。(○)</p> <p>イ・延べ約170社(春季26社、夏季129社、ハローワーク求人企業15社)を訪問し、就労先や職場体験実習先の開拓に努め、生徒の就労につなげることができた。(○)</p> <p>・保護者にも実習先を見学してもらうことで、事業所に対する理解が深まり、進路先とのよりよいマッチングを考えることができた。(○)</p> <p>・同窓会を4月(230人参加)、成人を祝う会2月に実施した。また、進路先との連携をとりながら、必要に応じてケース会議に参加し、アフターフォローに努めた。(○)</p> <p>・卒業後の進路や生活先の決定にあたっては、障害者福祉施設と必要に応じてケース会議等により、情報交換・共有しながら進めた。(○)</p> <p>・就業・生活支援センターや市町村の自立支援協議会等とは年間を通じて50回程度連絡会を実施しながら、情報の交換・共有を図った。(○)</p> <p>ウ・委員会でコースの運用の改善点を検討した。今年度は企業の協力を得て、職業コースの職場体験を前期・後期に分ける形に変更した。一か所まで長く継続的に実習することで、生徒の職業スキルを高めることができた。(○)</p> <p>また、「先輩に聞く会」やマナー講座など、生徒の職業意欲・スキルを高める講習・講演会を開催した。(○)</p>

府立富田林支援学校(高等部)

<p>3 地域と連携した安全・安心で、魅力のある学校づくり</p>	<p>(1)地域支援・地域連携 ア 地域の障がいのある生徒の支援の推進 イ 交流及び共同学習の推進 ウ「開かれた学校づくり」</p> <p>(2)学校行事など学校での教育活動の活性化 ア 学校行事の活性化 イ 部活動の活性化</p>	<p>(1) ア・南河内圏域の知的障がい支援学校高等部としての専門性を発揮し、障がいのある生徒が在籍している中学校や高等学校と連携し、障がいのある生徒の支援の推進を図る。</p> <p>イ・地域の高等学校との交流活動のさらなる推進と活動の改善。</p> <p>ウ・障がいのある生徒の理解推進に向けて、関係企業、学校支援ボランティア、地域の小中学校や自治会など関係機関の協力を得て、「安全・安心」「開かれた学校づくり」に努める。</p> <p>(2) ア 日々の授業や学校行事(体育大会や学習発表会等)で、生徒が主体的に参加し、自分の思いや自己を表現でき、成功体験がもてるよう工夫した支援・指導を行う。また、職場見学や実習の機会を確保するなど、豊かな社会体験を充実させる。</p> <p>イ 部活動(サッカー部・駅伝部)・生徒会・読書など生徒の主体的な活動の更なる活性化</p>	<p>(1) ア・地域からの相談回数</p> <p>イ・事後アンケート(満足度80%以上)</p> <p>ウ・地域や関係機関と連携・協力した事業の開催数 秋季に運動会、冬季にコンサートの開催。</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「子どもが楽しくいきいきと授業に取り組んでいる」の肯定率(H27 87.9%)を90%以上とする。 「学校行事は子どもが積極的に参加できるよう工夫されている」の肯定率の〈よくあてはまる〉を80%以上とする。(H27 96.7%のうち、〈よくあてはまる〉は74.7%)</p> <p>イ 参加生徒数や練習回数 駅伝部・サッカー部の練習回数(試合を含む)を昨年度実績以上に (H27 駅伝部 22日 サッカー部 74日) 読書環境の改善を検討する。</p>	<p>ア・地域からの要請に応じて、障がいのある生徒の支援を推進した。(教育相談17件、研修会講師7回、地域協議会への参加27回等)</p> <p>(○)</p> <p>イ・懐風館高校との交流(高校での作品展示〈9月〉と本校での授業交流会〈12月〉)を実施した。事後アンケートの記述をみると、互いに今年度の取組を発表する機会を設けたこともあって、双方の生徒の満足度は非常に高く、「共に学ぶ」よい機会となったことがうかがえる。交流のための交通手段の制約はあるものの、交流形態や方法などを工夫しながら、さらなる活性化を図りたい。</p> <p>(○)</p> <p>ウ・年間を通じて、地域の団体が主催する障がいのある生徒等が参加する事業に参画する(延べ76人)とともに、PTAや地域の関係団体と連携して、ミニ運動会(10月)、スプリングコンサート(1月)を開催することができた。 生徒向けの薬物乱用・交通安全教室や教員向けの研修の講師並びに災害の危機管理等を地域の関係機関と連携しながら実施した。</p> <p>(○)</p> <p>(2) ア・自己診断の肯定率「いきいきと取り組んでいる」(92.2%)であった。「工夫されている」93.1%、うち〈よくあてはまる〉63.6%と、〈よくあてはまる〉の割合は目標に達しなかったが、保護者からは、学校の取組みを評価する感想を多数いただいた。</p> <p>(○)</p> <p>イ・H28 人数・活動回数 駅伝部13人・32日、サッカー部14人・80日) ・学校ボランティアによる週1回の読み聞かせ会を実施。 ・政治的教養を育む教育の推進のため、富田林選挙管理委員会に協力を依頼し、図書や投票箱、記載台など貸与や模擬投票の実施などにより、活動の活性化を図ることができた。 ・府立中央図書館が子どもの読書活動を支援のために実施している「特別貸出用図書セット」を活用し、教職員が読書活動や授業等で活用できる書籍を利用した。</p> <p>(○)</p>
-----------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------